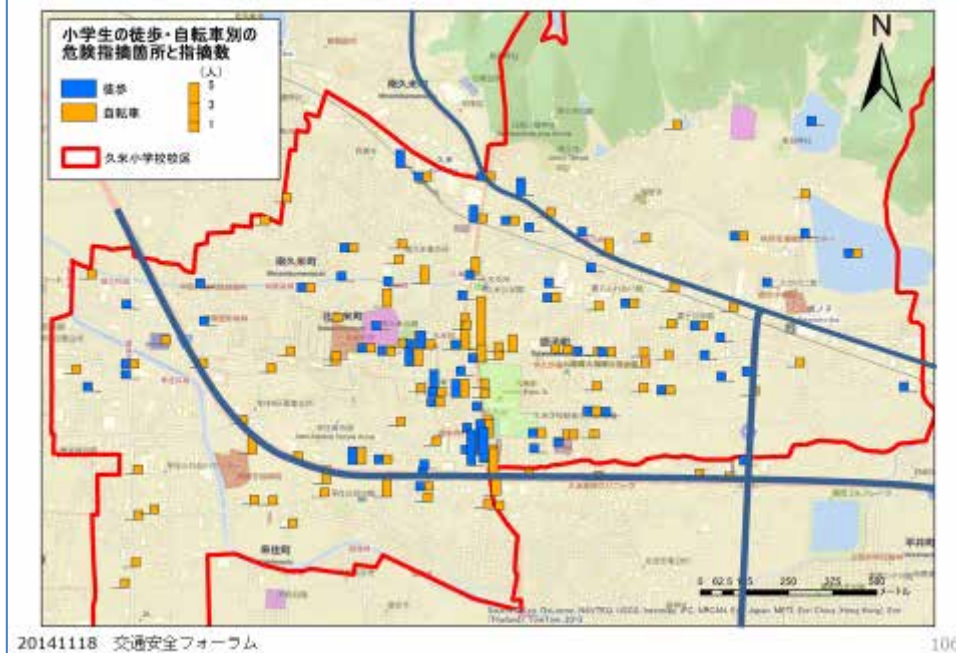


小学生の手段別の危険箇所とその指摘数



小学生の危険箇所、その指摘数みたいなものを出しているのですが、いろいろなところで危ないという地点が出てきていました。

自転車のほうが多く指摘されている場所は、幹線道路のみではなく、生活道路にも広く分布

↓

自転車のネットワークを考える際には、幹線道路のみではなく、その末端部分として、生活道路を含めた面的な対策が必要

20141118 交通安全フォーラム 107

そして、自転車に乗っていて危ないなというのも、こういうところが出てきます。

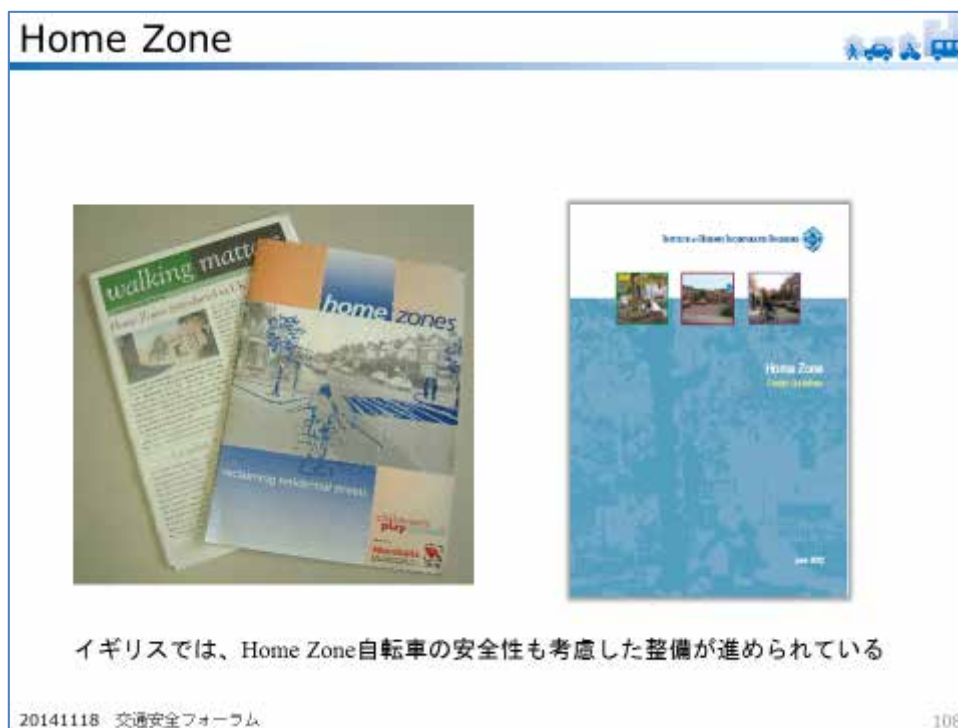
徒歩と自転車の指摘地点は重なっていたり、あるいはちょっとずれていたりするのですが、実は大きな道路だけじゃなくて、非常に狭い道路でもたくさん子供が危ない目に遭った経験があるというのがわかってきたのです。

自転車のほうが多く指摘されている場所というのは、実は幹線道路ではなくて生活道路にも広く分布していて、こんな何の変哲もないところが指摘されていたりするので。

現地で確認しても、ここが危ないとは我々も思いもしないのですが、実は子供がたくさん指摘しています。脇道から自動車が出てきて危ない目に遭ったとか、ここは自動車の速度がどんどん出てきて、たまたまここに人がいて、自動車がこちらに走って来て危なかったとか、何かいろいろなことを言うておまして、実は、こういうところも含めて自転車の家から目的地まで全てを安全にすることを考えるのが大切なのです。

幹線道路だけ安全にすればいいという話ではなくて、こんな街路も何とかしなきゃいけないのではないかと考えております。

海外についてですが、せっくなので大学の先生っぽいことも少しは言おうかと思って海外の写真を持ってきたのですけれども、これはマンチェスターという街で、ホームゾーンと呼ばれるような手法で整備しているのですが、



向こうは非常に古くから石造りの家をつくっているものですから、駐車場とかガレージというのがないところが多いのですね。

なので、自分の自動車を家の前にとめているということは非常に多いのです。

イギリス・マンチェスターでの整備事例



20141118 交通安全フォーラム

109

そういう空間を、駐車場の置き方を互い違いに千鳥状にしてあげることで自動車が普通に走れないというのをわざと造っているのです。

こういうことを計画的にすることで、自動車の速度が非常に落ちてきて、歩いたり自転車で走るのにちょうどいい。

向こうの計画している人にお話を聞くと、自転車の速度まで自動車の速度を落とすのだということをおっしゃってしまして、まさに非常に参考になるのかなと思います。

イギリス・マンチェスターでの整備事例



20141118 交通安全フォーラム

110

あとは自動車が走りにくくするようにこんな島をわざわざつくるのですけれども、自転車は走りやすいように横側に空間をつくっておくようなことも行っています。

この狭くなった部分は、1車線分しかないのですね。

向こうから来る自動車と手前から来る自動車、手前から来る自動車がいたら、向こうの自動車はここでずっと待つしかない。



要するに、簡単に住宅地内に入らせないよということをやっているのですね。

そうすると、外から来る自動車を待っていて、その間に自転車だったら入っていけるということをやっています。

Northmoorでの整備事例



20141118 交通安全フォーラム

112

これと同じようなことを実は千葉のほうでもやっているのですね。わざわざもともと2車線というか、2台とすれ違えるところをこんなことをしちゃって、お互いにお見合いをさせて、ここでそう簡単に速度を上げて住宅地に入ってこれないようになっているとか、こういういろいろ方法で自動車を抑え込もうと。そして、そうすることによって自転車を安全にしようということをやっております。

狭さと優先方向の明確化による進入抑制・速度抑制



鎌ヶ谷

20141118 交通安全フォーラム

113

これは狭窄と言って、もともと狭い道路なのですが、さらに狭くしようという工夫をしています。

これを出したのは、実は、私が2001年ぐらいに東京にいたときに一緒に地域の人とつくったコミュニティーゾーンと呼ばれるものでして、ボラードと言いますけれども、こういう棒を立てることで狭くして自動車が速度を出せないようにしようということをやっています。狭窄って結構いいなと思っておりまして、何がいいのかというと、こんなことに対する対策になるのですね。

これは今、ここに棒がいっぱい立っているの、何かここに道があるなと気づかれると思うのですけれども、これがなければ、もともと水路だったところに、上にふたをかぶせて歩行者の通路になっている。ところが、子供さんは普通に自転車で走るし、大人も自転車で走る。自転車というのは、もう皆さん乗ったことがあると思いますけれども、乗っている人の目の位置よりも、タイヤの一番前は物すごく前にあるのですね。

狭さくを用いた自転車事故対策

- ・自動車の路側帯への進入を防ぐ
- ・側道からの飛び出し対策にも



例えば、狭さくを自動車の速度抑制と、子供の飛び出しによる出会い頭事故の削減を意図して設置するということも可能

20141118 交通安全フォーラム 115

自転車に乗っている人の顔がここへ出てきて、ああ自動車が来ていないかなと見たときには、もうタイヤが相当前にいます。これではねられたり引っ掛けられたりすると出会い頭の交通事故になります。

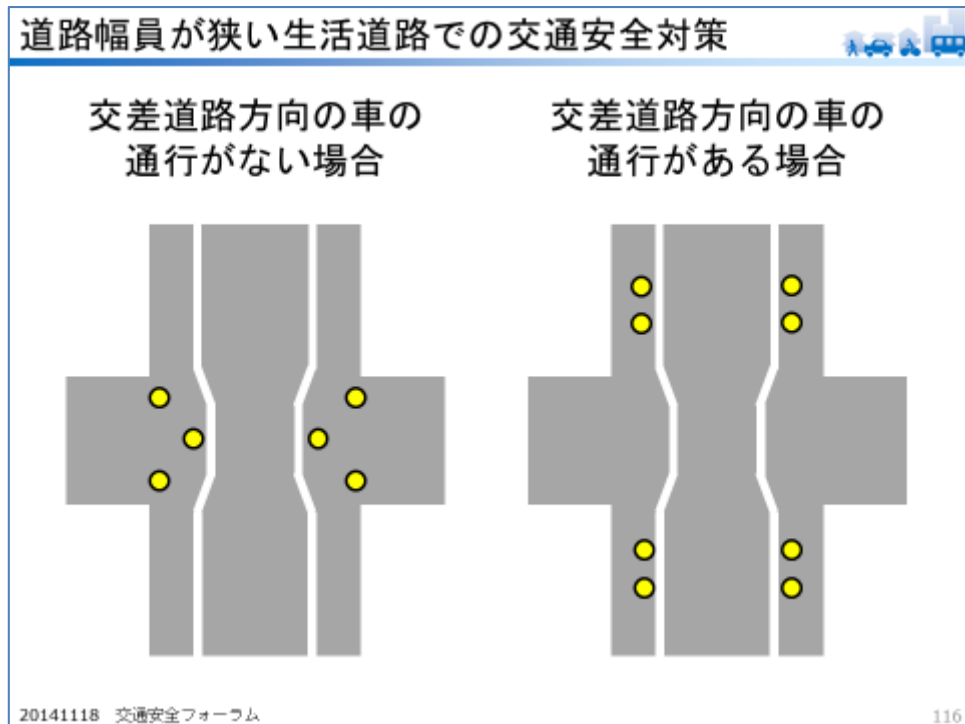
自動車が路側の側からできるだけ離れたほうがいいのです。さっきこれだけは覚えていってねという図を出しました。あれも同じですね。距離をとりなさいというのが唯一の教えだったのです。

距離をとりなさい。自動車と距離をとろうと。

自動車の走る位置をずらそうと。そういう意味でこういう方法も使えるのでは

ないかという気がします。

こういうことをやっているのですけれども、普通の四辻みたいなものだったら、手前にこうやって置いてということもできるし、何らかの工夫というのも可能かなと思っております。



日本だと碁盤目状に道路をつくっていきますけれども、そうすると幾らでも抜け道として住宅地が使われることになります。写真はイギリスの事例ですが、道路を遮断して自動車のネットワークを切っていこうとします。



途中にこういうポラードを立てるなどして、自転車は真ん中を通れるけれども、自動車は通れませんというものをつくることで、自動車が住宅地内に入るのを防いで、住宅地内の空間は自転車、歩行者が非常に安全に通行できる空間をつくっていかうということをやっております。



同じくロンドンでももともとなかったのだけれども、こういうものを立てて、ただバイク入っちゃうので、子供の絵で「ノーモーターバイクス」というので、「ここは私たちが遊んでいるところだからバイクも入ってこないでね」というのを付けて、この奥に行ったら、実は子供がお父さんとサッカーをしていたりとか、そういう空間として使っている。

日本でこれは現実性があるない、皆さんいろいろ判断をされるのではないかと思いますのでけれども、やはり家を出たところから目的地まで、幹線道路もそうでないところも含めて、安全な空間をつくる。そういう意味ではこういうことも考えて良い、選択肢に入れても良いのではないかという気がいたしまして御紹介いたしました。

遮断の例（単路部）



イギリス・ロンドン・Lupton Street

20141118 交通安全フォーラム

119

これはサッカーしているところですね。さっきのものはここにあります。こんな空間にして、なかったベンチを置いたりとかそういうことをやっていたりとか、

Automatic Bollardによる進入抑制



イギリス・ケンブリッジ

20141118 交通安全フォーラム

120

イギリスに行ったらこういうオートマチックボラード、ライジングボラードと言いますがけれども、関係する住民の自動車とかバスとかごみ収集車とか宅急便とか、そういうものが来たら下がるけれども、関係ない自動車が来たら下がらないと。関係ない自動車は入れませんよということをやっています。

Automatic Bollard (ナント)



20141118 交通安全フォーラム

121

こんな標識みたいなものもフランスに行ったらあたりして、我々はこれをどうやって入れたのかとヒアリングに行ったことがあるのですが、どの街に行っても普通にいっぱい転がっているので、逆にヒアリングするのが恥ずかしくなったことはあります。

Automatic Bollard (ナント)



20141118 交通安全フォーラム

122

昔は自動じゃなくてこういうものを手で引き上げてやっていたらしいのですが、

Rising Bollard (ナント)



20141118 交通安全フォーラム

123

Rising Bollard (ナント)



20141118 交通安全フォーラム

124

今は自動でやっている。

新潟市内のRising Bollard



20141118 交通安全フォーラム

125

これは外国だけじゃなくて日本、新潟市内に同じようなものを社会実験で入れて、現在もう運用しているものです。

国内でもこういうのも夢物語ではなくなってきたということです。

私の言いたいことは、住宅地から幹線道路も含めて、全体を一連の安全な空間としてつくりたい。そのときにできるだけ、先ほどの駐車の話もそうなのですが、ハード整備だけじゃなくてソフトも含めて安全な空間をつくっていききたいなということでございます。

御清聴ありがとうございました。